



# 「九条の会」ニュース

発行責任者：片岡 隆  
連絡先 090-7118-2312

## 止めよう「戦争への道」 ～特定秘密保護法案を廃案に～

特定秘密保護法案が衆院を通過した。安倍政権は、大きな反対の世論を無視して、結論ありきで拙速に成立を急いでいる。世界の常識は情報公開にあるにもかかわらず、国益の名の下に国民の知る権利を大きく制限し、情報は国民のものという民主主義の大原則を踏みにじろうとしている。数の力による暴挙そのものである。

この法案の本質的な問題は、何が秘密に指定されているのか分からないという恐ろしさにある。「秘密についての秘密」が、知らぬ間に広がり、取り返しのつかないことになりかねない。先に成立した国家安全保障会議（日本版NSC）設置法案と一体となり、日米同盟のさらなる軍事強化に踏み出そうとするもので、廃案にすることを強く訴えたい。

また、年内に策定しようとしている新防衛大綱での敵基地攻撃能力の保持やオスプレイ追加配備、無人偵察機の導入等大幅な軍備強化が予定されている。その先には武器輸出3原則の大幅緩和から、自衛隊が専守防衛から逸脱して海外で無限定に武力行使ができる、即ち「戦争ができる国」への道を開こうとする集団的自衛権の行使容認がある。



## 世界の宝、生かそう9条！

世論の反発により96条からの改憲は後退した感があるが、このような一連の動きにより9条が死文化する危機にある。戦後平和憲法の下で積み重ねてきた解釈や原則がなし崩しに変えられようとしている。もちろん、北朝鮮の核開発問題や中国の海洋進出など東アジアには緊張の火種はある。しかし、わが国は「9条を持ち戦争をしない国」だからこそ、さまざまな形で国際平和に貢献できる立ち位置にいるのではないか。今、求められているのは憲法9条を生かし、軍事力に依存しない分野での貢献である。いたずらに周辺国との緊張を高め、自ら平和主義を放棄しようとしている安倍政権の動きには、断固として「NO!」をつきつけよう。

憲法9条と同年の中村哲医師（ペシャワール会代表）は言う。「アフガニスタンでは、単に日本人だから命拾いしたことが何度もあった。9条は日本に暮らす人々が思っている以上に、リアルで大きな力で守ってくれている」、と。29年間アフガニスタンで医療や灌漑事業に取り組んできた中村さんの言葉だからこそ重い。この言葉をあらためてかみしめたい。